



## わかば学習発表会

わかば学級 菅野谷 拓美

今年度、わかば学級では和太鼓に挑戦しました。題名は「わかばぶち合わせ太鼓」です。グループに分かれ、体育館で約二か月間をかけて練習しました。密を避け、クラスごとに練習を積み重ねながら、学級全員での練習を始めて、少しずつ上げていきました。わかば全員で挑戦した和太鼓、異学年での活動をほとんど取り組むことができなかった今年の子供たちにとって、学年を超えて互いを知り合い、少しずつ交流へとつながる機会にもなりました。

保護者の皆様には保護者会を通して、練習風景を観ていただきました。「よかったです」と感想をいただき、嬉しかったです。ありがとうございます。日々の応援を力に頑張ることができました。改めて感謝を申し上げます。

子供たち一人一人が様々な体験を通してじつくりと学ぶことができるわかば学級、学習活動が制限される中でもそのよさを活かし、子供たちが主体的に取り組み、楽しめる活動となりました。

## 委員会活動

特活部 加藤 葉月

今年度の委員会活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、委員会によっては、活動の内容や方法を一部変更して行っています。例年ですと、月に数回、集委員会や音楽集委員会による全校集会があり、簡単なゲームや歌を歌う等して楽しみました。しかし今年度は、活動内容を工夫し、クラスで取り組めるクイズや活動内容をビデオで紹介する等、全校で集まらなくても楽しめる内容を考えて、取り組んでいます。どの委員会でも、健康・安全に気を付けて活動するにはどのようにしたらよいかを踏まえて、活動計画を立て直しました。

このような状況・情勢の中だからこそ、子供たち自身が学校生活の充実と向上を目指し、異学年とも協力して活動を工夫し、作り上げていくことが大切だと考えます。

## 図工室の風景

図工専科 阿部 満理子

図工の授業では、自分の気持ちを大切にしながら作品を制作したり、友達作品や芸術作品などを鑑賞したりしています。二学期は毎年学校行事に関わる題材で作品を制作してきましたが、今年度はそれも難しく、代わりに自分でテーマを決めて取り組むことが多くなりました。中学年では自分の思いを表現することを楽しみ、高学年になると今まで学んできた経験や思い出をもとに発想を広げ、理想の表現を追求する姿が多く見られました。

発想が広がらず、「何も思いつかない」と相談にくる児童もいます。そういった児童は友達や家族と過ごす生活の中で、様々な情報を大量に受け止めている最中なのだと思います。自分にとって心地よいものは何か、どう表現すれば思いは伝わるのか。心に積み重ねてきたものを改めて見つめる場として、児童に寄り添いながら制作活動を支えていきたいと思っています。

## 道徳

特別の教科道徳主任 室岡 宗一朗

道徳科の学習ではこれまで、教材を足掛かりにして、自分自身のことや、よりよい生き方について考え、議論することがなされてきました。しかし、現在の状況から、隣の席の児童と面と向かって話したり、班や小グループで意見を交わしたりすることが難しくなりました。そのため、授業ではこれまでとは違ったやり方で、友達の思いや考えを知ることができるような工夫が見られるようになりました。例えば、伸ばした指の数で登場人物の気持ちを表したり、色画用紙で自分の立場を表明したりする等の視覚に訴えたものや、児童の書いたワークシートやアンケートの結果を発表し、意見を共有する等です。簡単に「話し合いましょう。」ということができなくなったことをきっかけとして、より効果的な学習活動を考えることにもつながりました。様々な「変化」を余議なくされる今、道徳科の目指す目標に向かって今後も工夫しながら学習を進めて参ります。